

豊田民報

日本共産党豊田市委員会
◆ 豊田市日之出町一・六・六
Tel: 三四・四七二
毎週一回発行

要求実現運動と 公約実現に全力

7月20日に投開票された参議院選挙で、愛知県党は比例代表選挙で「33万票、10%以上」を目標にたたかいましたが、得票で13万7534票、得票率3・84%にとどまり、比例5議席獲得の責任を果たすことができず、当選に責任をおつていた井上さとしさんの議席を失うことになりました。愛知県党の比例の直近の得票数・得票率、前回参議院選挙の17万8808票、得票率5・76%、昨年総選挙の17万8900票、得票率5・52%から後退する結果となりました。



選挙結果を報告するすやま初美選挙区候補（中央）

愛知選挙区はすやま初美候補が獲得した得票は、14万5318票、得票率4・07%で、3年前の参議院選挙で獲得した19万8962票、得票率6・43%から後退する結果となり、議席獲得には至りませんでした。

今回の選挙の結果は、大変に悔しく残念な結果です。日本共産党とすやま初美をご支持いただいた有権者の皆さん、猛暑の中、大奮闘された支持者、後援会員、サポーター、党員のみなさんに心からの感謝を申し上げます。ご期待に応える結果を出せなかったことに、お詫び申し上げます。党内外のご意見を受け止め、次の県委員会総会でしっかりと教訓を引き出し、次の国政選挙のたたかい、今後の地方選挙のたたかいの必ず生かし、捲土重来を期す決意です。

今回の選挙で、愛知県党は衆議院に続き、参議院でも自公過半数割れに追い込むために、比例での5人全員の当選、そして市民と野党の共闘を迫及して3

2の1人区のうち17の1人区で一本化された候補の勝利、そして定数4の愛知選挙区でも自民公明の2議席獲得を、すやま候補の勝利で打ち破ろうと訴え、たたかいました。その結果、一本化された17選挙区のうち、12の1人区で勝利を勝ち取り、愛知選挙区でも公明が議席を失いました。これらは、自公への審判を下すうえでの貢献となりました。

一方、自民党の補完勢力や、外国人差別を売り物にする排外主義・極右的潮流が議席を伸長させる結果となったことは重大です。愛知選挙区では、国民民主の候補が59万5千票あまりを獲得してトップで当選し、参政党の候補も53万あまりを獲得して自民党候補を上回る3位で当選しました。

「既成政党か新興政党か」という対決構図を作り、補完勢力と排外主義の立場に立つ政党の消長に選挙戦の争点があるかのような報道が一部メディアによって煽り立てられました。それは、選挙戦の真の争点を覆い隠す役割を果たすとともに、わが党の前進を妨げる大きな圧力となって作用しました。

同時に、わが党とすやま候補がこの逆流ときっぱりとた

たかう姿勢を貫いていることが、この現状を憂える人々の中に新たな信頼を広げたことは、すやま候補の演説を聞きにこれまで結びついていなかった人が駆けつけたことにもあらわれました。わが党は補完勢力と排外主義・極右的潮流の危険性を直視し、人間の平等、人権と民主主義を守りぬく立場から断固としてたたかっていきます。

愛知の比例の得票を見ると、自民が大幅に得票を減らし65万1千票、第2党は国民民主で58万6千票、第3党は46万6千票あまりの参政党で、総選挙の69万4千票から45万5千票に減らした立憲民主党を上回りました。

排外主義の潮流が台頭している根っこには、暮らしの深刻な困難と政治への閉塞感があります。この潮流をうち破っていくためには、県民の切実な要求を実現していく展望をしつかりと指し示していくことが必要です、そのためにも、愛知で相互協力、相互支援による本気の共闘を創りあげていくことがいよいよ必要となつていふと考えています。

自公と補完勢力、それに立憲民主党も加わる強固なオール与党体制にある県議会。日

本の政治が歴史的岐路に立たされるもとで、大きな激動がおこっていくことは避けられません。

排外主義・極右的潮流に正面から対決し、政治の転換をめざす日本共産党の役割は、大きなものとなっています。

愛知の政治には、時流に流されず正論を貫く政党がいよいよ必要となっています。愛知県党はそのことを自覚し、県民とともに、自民党政治に代わる新しい政治を模索・探求する新しい政治プロセスを前に進めるために、全力をあげる決意です。

あわせて選挙でおこなった政策的訴えは、どれもが県民の願いにかなった先駆的なものだったと考えています。

自民党政治の「二つのゆがみ」をただす改革をすすめることこそ、暮らしや平和の危機を打開し、政治の閉塞状況を打開する展望があります。ここの揺るがない確信をもつてあらゆる分野で県民の要求実現の運動をおこし、選挙でかかげた公約の実現に全力をあげます。

（参議院選挙の結果について）2025年7月22日
日本共産党愛知県委員会常任委員会 より抜粋）

6月議会の報告

補正予算

大型事業関連の増額

豊田スタジアムで、民間事業者が大型蓄電池の実証（実験）を5年間行い、1千万円を毎年、市が負担します。

市駅東口交通広場整備工事

都心環境計画に基づく駅周辺整備事業は、現段階で合計約138億円で、市費負担額も不明。本工事はその一部。現在の駅東口バス乗降場が今後、さらに東のコモスクエアの前に移動となり、不便。

ギガスクール構想は立ち止まり 学校の先生を増やして

すべての児童・生徒の学習用タブレットの更新が行われますが、国のギガスクール構想で多額の交付金により、国主導で進められます。いったん立ち止まり、学校の先生を増やして、さらなる少人数学級の実現が急がれるのではないのでしょうか。



6月定例市議会では、市長からの23件の議案と1件の同意案件、1件の議員提出意見書に対し、日本共産党市議団・根本市議は、このうち、6議案に反対、約74%の17議案、同意案件、議員提出意見書に賛成しました。主な議案についての各会派の賛否（○×）は表のとおりです。	共産党・根本みはる市議	自民クラブ（28人）	市民フォーラム（国民）（9人）	公明党市議団（4人）	新しい風とよた（3人）
市税条例の一部改正に反対…市内の掲示板での掲示に限っていた公示送達を、インターネットによる閲覧に供することが義務付けられる。開示した情報が容易に拡散され、流用されるなど、プライバシー保護の観点から重大な懸念がある（デジタル臨時行政調査会事務局の基本方針でも指摘）	×	○	○	○	○
一般会計補正予算に反対…補正予算のうち、①豊田スタジアムで大型蓄電池の運用実証を行う事業と②豊田市駅西口施設整備事業について。 ①連携事業者と協議をした結果、市は、蓄電池の維持管理等に係る費用の一部として、年間で約1000万円を5年間、負担する。しかし、事業にかかる事業者負担の費用が示されないままに、市の負担費用の妥当性は認められない。 ②豊田市駅西口施設整備事業の6億円の増額補正に反対。想定による算出により、乖離があったことが理由だが、大型公共事業において設計、調査における諸課題を洗い出す必要がある。	×	○	○	○	○
工事請負契約の締結について（豊田市駅東口交通広場整備工事）に反対。 都心環境計画に基づく駅周辺整備事業は豊田市駅西口ペDESTリアンデッキ整備事業、豊田市駅駅舎改修事業、東口ペDESTリアンデッキ耐震工事、豊田市駅東口交通広場整備工事など、現段階で合計約138億円で、市費負担額も不明。 現在の駅東口バス乗降場が今後、さらに東のコモスクエアの前に移動となると、コモスクエア前バス停から駅で乗り換える利用者には当然、影響があるものと考え、交通結節機能の点からも問題。	×	○	○	○	○
豊田市総合野外センターの多目的ホール等空調設備工事についてに賛成。 空調施設の設置により、酷暑期や厳冬期も安全で快適に利用できるようになるため、これまで利用のなかった団体や家族層も含め、利用者の増加がみこまれることから、賛成。	○	○	○	○	○
学習用タブレット端末ほか5品目等の購入他、関連の2議案に反対。… 1人1台のタブレット端末の使用にあたり、児童生徒の健康面への影響等についての検証は行われるべき。また、教職員に対しては、児童生徒の健康面にも配慮した授業の研修をおこなうなど、教職員への負担ははかりしれない。保護者への損害保険料負担も把握されないまま、タブレット端末の家庭への持ち帰りが継続されている。 多くの課題がある中で、国のギガスクール構想は多額の交付金により、国主導で進められる。いったん立ち止まり、課題に対する対応と、一人一人の子どもに向き合える、さらなる少人数学級のとりくみを加速することが必要。	×	○	○	○	○